

認知症でも大丈夫

誰もが安心して暮らせるまちに！ 西東京市認知症高齢者の徘徊模擬訓練に参加して

今回7回目を迎えた徘徊模擬訓練は、社会福祉法人悠遊が中心となり実施。西東京市と周辺地域の地域包括支援センターなどが連携し、保谷小学校の体育館を拠点に実施されました。この訓練は、高齢者が行方不明になったという想定のもと、行方不明の高齢者の役を演じる人をグループに分かれて捜索するものです。

まず、「認知症サポーター養成講座」で基礎知識を共有。悠遊が受託している泉町地域包括支援センターの管理者によるお話と、徘徊している人に対する接し方を寸劇でわかりやすく説明されました。声をかけるときは必ず前から・おおぜいで取り囲んで次々質問を浴びせたりしない・高齢者の尊厳を傷つけるようなことを言わない。普通でも知らない人に突如後ろから声をかけられたり、取り囲まれたりしたら驚くし、いきなり怒られたら傷つきます。不安な気持ちを抱えている高齢者ならなおさら、笑顔でのさりげない声かけが大事です。このポイントをしっかりと頭に入れ、いよいよ訓練スタート。地域包括支援センターの職員がリーダーとなり、1チーム6～7名×11チームが4地区に分かれて事前に与えられた情報（名前、いなくなったときの状況や年齢、性別、服装など）をもとにそれ

ぞれ徘徊役の人を探していきます。道行く人に「こんな人を見かけませんでしたか？」と声をかけながら決められたエリアの中を探るのですが、なかなか見つけ出せず、これが訓練でなければひとりぼっちで歩き回っている高齢者はさぞかし不安になったことでしょう。ちょっと様子がおかしいかな？大丈夫かな？と普通の地域の生活の中でお互いに気にかけることが大切だと実感しました。

高齢者をみんなで見守るまち、認知症になっても安心して暮らせるまちは、誰もが安心して暮らせるまちでもあります。このような取り組みが他の地域へも広がるように政策提案にもつなげていきたいと感じました。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡



↑認知症サポーター養成講座の寸劇

インクルが今すすめていること

● 福祉ツアー2015のまとめ作成

1面にも掲載した、富山への福祉ツアーの報告をまとめています。ホームページにも概要を掲載しますが、関心のある方はまとめをお送りしますので下記までご連絡ください。

☎：03-5426-5207（生活クラブ東京内・インクルーシブ事業連合）

メール：info@inclusive-gr.com

● 市民版地域福祉計画づくりの推進

計画づくりに取り組んでいる地域協議会をはじめ、関心のある地域協議会にも呼びかけ、情報共有する場（仮・安心ネットワーク連絡会）を持ちます。第1回は2016年2月に行う予定です。

● 共にはたらく事業所を応援

2013年度にまとめた就労継続支援事業サポートプロジェクトの支援策を具体化するための話し合いをはじめます。

● インクルファンド（地域たすけあい福祉基金）助成

福祉事業を推進するインクルファンド助成の2016年度第1回の募集は12/25締切りです。次回募集は2016年10月以降にスタートする事業を対象に2016年4月に募集を開始します。

スポット寄付へのご協力 ありがとうございました！

★10月～11月に募集したスポット寄付には119人の方から計367口（183,000円）のご協力をいただきました。
★月々300円の登録寄付をしていただいているサポーターは2015年11月末現在442人（474口）となりました。（2015年度末目標は800口）インクルファンドの財源として大切にに使わせていただきます。



暮らしたいまちを描こう！市民版地域福祉計画フォーラム

インクルーシブ事業連合では、地域の中で安心して暮らし続けるためのしくみとして、2014年度に「市民による市民のための安心ネットワーク構想」（以下、安心ネットワーク構想）を策定しました。この安心ネットワーク構想と、その実現に向けた市民版地域福祉計画を各地域協議会の運動グループメンバーと共有し、実行性を高めていくためのフォーラムが、生活クラブの各ブロックごとに企画・開催されました。

23 区南

9月3日
生活クラブ館

● みんなで描く“わたしたちのまち”その①

総代会議のテーマを今年度の方針にも掲げている「まち構想（まちの長期計画）の策定」とし、その前段階として、長期計画を持つ意味や目的が確認されました。

● 10年後のまちを思い描いてみよう

まち（自治体）別に分かれてワークショップを行い、夢を語り合いながら、身近な地域の未来図を運動グループと一緒に描きました。今回の成果は、各地域協議会で描く市民版地域福祉計画につなげていく予定です。



● ピアふえすた&運営委員研修のテーマを 市民版地域福祉計画に！

杉並地域協議会の市民版地域福祉計画を策定している「福²（ふくふく）プロジェクト」の見学会や行政ヒアリングなどの活動が報告され、イメージを共有しました。

● 「高齢者が輝くまち」「子どもが輝くまち」

まずは、まちの中にあつらいいなと思うことを出し合い、その後「高齢者」「子ども」のテーマ別ワークショップで議論を深めました。また、練馬・板橋・杉並にある、誰もが集える地域の居場所「まちのほっとスペース」の活動紹介を行いました。



北東京

10月26日
練馬センター

● 「見つけよう！私が輝く場所」交流会

安心ネットワーク構想および縁がわ構想の説明の後、西東京地域協議会の市民版地域福祉計画の内容や策定経過について報告されました。西東京はもともと長期計画があり、市民版地域福祉計画は居場所づくりがメインになっています。現在、子ども食堂の取り組みも始まっています。

● 自由な発想でまちを描く

6グループに分かれてのワークショップでは自由な発想でまちづくりの構想を出し合い、それぞれ発表する中では「多世代」「居場所」「コーディネート」等がキーワードになっていました。今後、各地域で具体的な計画づくりへとつないでいくことが期待されます。



多摩 きた

10月27日
東村山市民
ステーション
サンパルネ

多摩南

10月14日
多摩統合
センター



● 拡大版・まちづくり懇談会のテーマに

安心ネットワーク構想の説明と現在策定中の府中地域協議会の活動紹介、多摩・八王子の地域協議会の中長期計画について報告があり、ACTと生活クラブがすすめる、まちのほっとスペース構想についても共有されました。

● 地域の資源とのネットワークが大事

府中の事例から、地域の資源とのネットワークづくりの重要性等が報告されました。また、地域協議会は「まちづくり」の活動に取組むのだということを改めて確認する機会になりました。